



村道の路盤維持管理は？

みらいの会 舛井 文夫 議員

**議員** 路盤の損傷、歩道の凹凸等が見受けられるが、維持管理や補修計画はどうなっているのか。

よりひび割れや路盤沈下が発生します。

**建設水道部長** 村道の総延長は、約340kmあり週3回職員とシルバード道路パトロールを行っており、軽微な補修については即時に対応して、道路の安全を確保しています。

応急処置として、局部的なひび割れは、アスファルト系のシール注入剤で補修し、延命化を図っているのが現状です。

車道や歩道の路面の寿命は、おおむね10年から15年であり、車道や歩道の一部に凹凸が見られることは承知しています。

村独自の維持管理計画はないが、東海村みちづくり基本計画を策定中であり、道路整備や歩道のあり方について基本計画を来年度に策定していきたい。

舗装は、気象条件や交通量、経年変化等に

**議員** 福祉だけが日本一じゃなくて、バランスのとれた村政が必要と考えるが、道路に対して、村長は基本的にどう考えているのか。

**村長** 今までは車中心、車だけの利便性を求めて道路がつくられてきました。これから車中心から人中心への道路であり安全で交通事故のない道路をつくっていく。

例えば、車が走りづらい道、スピードが出せない道をつくっていきません。車が走るため便利がいい道路の時代は、20年前に過ぎていくと思っています。

**議員** 道路に対する見解の相違であり、その場しのぎの道路でなく将来につながるような持続可能な道路を考える必要がある。



とうかい教育プランを問う

みらいの会 鈴木 昇 議員

**議員** 平成13年3月に策定された教育プランの最終年となる。県平均との評価と今後の支援策について問う。

細かな学習指導をし、成果を上げています。

**教育長** 本村独自の特色ある教育活動を推進してまいりました。全校にALT（外国語指導助手）を常駐させ、英語を身近なものとしていきました。学校図書館指導員によって本が整備され、平成15年度から比べると平成21年度には、年間50冊の本を読んだ児童の割合が約60%も増えました。また、中学校に配置したスタディ・サポーターにより、きめ

専科指導員では、音楽や図工の質の向上だけでなく、特に理科では、環境省や文部科学省その他の財団から理科の研究の優れた学校として、さまざまな賞をいただくことができました。

今後につきましては、これまでの教育をさらに充実させていくとともに、特に「学習が好きな子どもを増やしていく」ことを目指し「確かな学力の定着」を図っていきたくと考えています。また、特別支援教

育に携わる「発達支援センター」や生徒指導に携わる「教育支援センター」を整備・充実させ、さまざまな困難な状況にある子どもたちにも教育の機会を均等に提供し、支援していきたくと考えています。



スタディ・サポーターの活動